



知っていますか？

太陽光の仕組み つくる・へんかん・つかう・うる



全7回に渡り、太陽光発電とは何かを、皆様へお伝えいたします。
今回は発電～売電までの流れをテーマにお届けします。

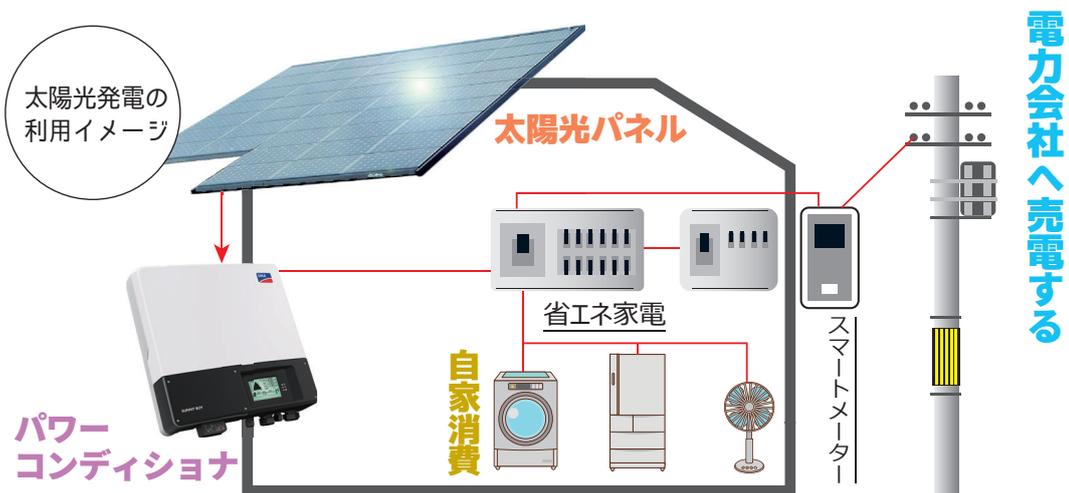
つくる

太陽の光を電気に変えるのが、太陽光パネルです。屋根に取り付けることで、パネルに太陽光が当たり、発電します。

パネルの性能や枚数に比例して発電量は増えます。但し、発電した電気は直流を交流に変換する必要があります。また、天候に大きく左右されて、電力量が変わるのが特徴です。

へんかん

太陽光パネルから流れる直流電気を効率よく交流電気に変換するのがパワーコンディショナの役目です。これをつけることで、発電した電気を電力会社から届く電気のように自宅で利用できるようになります。最初に設定すると、その後は特別な操作がなくてもしっかり働きます。



つかう

パワーコンディショナで変換された電気は、分電盤を通して各家電器具に流れ、電力会社から買った電気と同じようにご自宅の家電設備で利用できます。発電した電力量が使用中の電力量を上回った時は、電力会社から電気を買わずに家電が利用できます。また、停電した場合は、停電時専用の機能で非常時専用コンセントから電気を利用できます。いざというときも安心です。

うる

発電した電気より、ご家庭内で使う電気が少ない場合は電気が余りますが、あらかじめ電力会社と契約しておくことで、余った電気を売ることができます。固定価格買取制度では、10年または20年間固定価格で電力会社買取するため経済効果が高くなりやすいです。

太陽光に関するお問合せは